【調　査　作　業　の　様　子】

令和６年度は昨年度に引き続き、目録作成に向けた資料データの入力のほか、各分野の調査協力員による資料調査、また学生による史料解読を実施し、各資料から読み取れる詳細な情報を調査しました。

今年度は、調査協力員による資料調査を計４回（文献資料調査３回、家具資料調査１回）、学生による史料解読調査を２回実施しました。

▲ 愛媛大学学生による文献資料調査（2024 年９月 18 ～ 20 日）

愛媛大学の学生による調査風景。愛媛大学教授胡光氏の指導の下、主に近世資料の解読及びデータ作成を行い、調査後には各自の調査成果を共有し、解読した内容の確認と考察を行いました。

拝借銀願出等大量の資料がまとめて綴られ、当時の松平家の財産管理の実態を窺うことができる貴重な資料です。その多くは近世のものですが、一部近代の史料も混入しており、近代に入ってから綴られたものであることが分かります。

▲ 家具資料調査（2024 年 11 月１日）

11 月に実施した家具資料調査では、家具資料に関連する文献資料等を調査しました。

家具本体に加えて、その見積資料が充実して残っているため家具の発注先や材質等が分かる他、家具が使用されていた披雲閣（旧松平家高松別邸）での行事記録などは、家具が実際どのように使われていたかを窺うことができ、より多角的な情報が得られる重要な補足資料になります。

▲ 文献資料調査（2025 年１月 29 ～ 30 日）

文献資料調査では、松平家が運営していた塩田関係資料や、近代の高松城に関する資料を調査しました。

塩田関係資料としては、小作人の約定書や経営帳簿など塩田運営に関する多数の資料がありました。また近代高松城に関する資料として、明治期における陸軍省から松平家への高松城払い下げの経緯を示す書類、城内の櫓・門の相続登記など、近代における高松城の管理運営の実態を窺うことができます。